

過労死防止学会第8回大会 共通論題 COVID-19 災禍と長時間労働

報告 コロナ禍での医師労働の諸相とはたらき方改革

公益社団法人京都保健会 理事長 吉中丈志

公益社団法人京都保健会は京都府下で、3病院、12診療所（歯科併設2）、23介護事業所等と看護学校を運営しています。医師155名、看護師637名など常勤職員数は736名（2022年3月現在）です。1956年発足時から無料低額診療に取り組んできました。すべての事業所が民医連に加盟しています。

「地域における医療、介護・福祉、保健予防サービスを提供し、社会医学的研究を行い、国民の健康で文化的な生活の増進に寄与する」という理念のもとに、患者の命を守る、地域住民の防疫を支援する、職員の健康を守る、を柱に、全事業所で新型コロナ感染症とたたかってきました。病院の新型コロナ対応は、京都民医連中央病院（411床）が重点医療機関、京都協立病院（99床）と吉祥院病院（44床）が協力医療機関です。入院医療だけでなく、発熱外来、訪問診療、ワクチン接種などを実施してきました。事業所だけでなく発熱外来やワクチン接種・、施設療養出務、健康観察受託なども行っています。コロナ対応のための医師労働は事業所や専門性などの特性によって多岐にわたっています。

発熱外来、新型コロナ患者受け入れ、ワクチン接種などを行ってきた京都民医連中央病院における医師の労働実態を調べました。

労働時間の目安として超勤時間のデータを見ると、予想に反してコロナ前より冨同次官は短縮していました。看護部門など他の部署についても同様でした。また、吉祥院病院、京都協立病院、太子道診療所、上京診療所でも同様の傾向でした。

コロナに関連する医師の労災は1件です。他にも家族感染例や濃厚接触者になって休業する医師がありましたが休業中には法人内の医師配置や非常勤医師体制で乗り切っています。コロナに関連する看護師の労災は6件です。医師、看護師共に血液等暴露が各々3件、8件でした。メンタル不調によるカウンセリング件数は増加しておりません。

コロナ禍において長時間労働の増加は見られませんでした。コロナ関連労災はありましたが、血液暴露等の通常時の労災を上回ることはありませんでした。

20年近い感染管理活動の積み重ねによって専門医や認定看護師などが育成され、多職種型の感染対策チームが稼働してきた経験の蓄積があり、リニューアルによって病床など院内の感染対策環境が整備されたことによって、比較的良好な環境で新型コロナ感染に立ち向かうことができました。また、10年以上前から医師の勤怠管理も電子化して見える化し、当直業務の整理も進めており、培われた協力して業務を行う風土の存在の寄与も大きいと思います。

京都民医連中央病院はコロナ感染が起きる直前にリニューアル移転を行いました。新病院の運用を軌道に乗せる最中に新型コロナ感染に遭遇したわけですが、院内で大規模なクラスターは発生せず重点医療機関としての機能を発揮することができました。